

当院の方針 ～発達外来～

お子さんの発達で気になることがあった時、相談できる場所がありますか？

乳幼児期

- ・寝ない
- ・離乳食を食べない
- ・夜泣きが多い
- ・かんしゃくが強い
- ・ことばが遅い
- ・偏食が多く、決まったものしか食べない
- ・1人で食べない
- ・1人遊びが多い



小学生

- ・爪かみ
- ・チック
- ・夜尿や昼間の遺尿
- ・登校しぶりや不登校
- ・友達とのトラブルが多い
- ・集団活動ができない
- ・授業中の立ち歩きが多い
- ・忘れ物が多い
- ・朝が起きられない
- ・学習についていけない



中学生、高校生

- ・不安が強い
- ・朝が起きられない
- ・不登校
- ・学習についていけない



上記の症状があっても発達障害の診断がつくわけではありません。

しかし、子育て中にお子さんの発達や日常生活で気になることは、どの親にでもあることです。その“気になること”が、個性の範囲内なのか治療が必要なものなのかと悩むこともあると思います。そのような時、ネット情報をもみても簡単に判断がつくものではなく、親は不安になったり、子育てに自信をなくしたりします。

発達外来では、親の不安に寄り添い、ともにお子さんの“気になること”に向き合いたいと考えています。

これまでの発達経過、日常生活の困り感や心理検査から自閉スペクトラム症、注意欠陥多動症(当院はコンサータ登録医療機関です(ビバンセは申請中))、発達性協調運動症、チック症、知的障害、学習障害など診断をしますが、診断がつかない場合も多くあります。また、同じ診断名でもお子さんごとに日常生活の困り感は異なるため、それぞれのお子さんに必要な支援をご家族とも相談しながら提供していきます。

また、当院は特に小児期から成人期への移行医療(むすび)を大切にしています。発達特性のあるお子さんは環境変化に影響されやすく、成人後も特性は続く場合があります。当院は成人後も診療が継続でき、お子さんの一番大切な自立の時期にも連続した医療支援が可能です。

お子さんの発達で気になることがあった時は、是非当院の発達外来でご相談ください。

【当院の心理検査】

※検査は一つの目安となるもので診断がつくわけではありません。
いずれの検査も対象年齢があります。また、当院には心理士はいませんので、田中ビネー、WISCIVなど必要な検査がある場合は他院へ紹介いたします。

・AQ日本語版自閉症スペクトラム指数

「社会的スキル」「注意の切り替え」「細部への関心」「コミュニケーション」「想像力」の尺度で自閉傾向を検査します。

・PARS – TR(親面接式自閉スペクトラム症評定尺度)

自閉スペクトラム症の発達・行動症状についてその程度を評定する検査です。

・TK式診断的新親子関係検査

親の自己評価とお子さんからみた親の客観的評価の2つの観点から、親の態度を(拒否、支配、

保護、服従、矛盾・不一致)の領域で診断し、望ましい親子関係へつなげる検査です。

・S-M社会生活能力検査

知的発達に遅れのあるお子さんの評価に不可欠な要素である「社会生活能力」を的確に把握できる検査です

・DSRS-C(パールソン児童用抑うつ性尺度)

子どもの「うつ病」のスクリーニング検査の一つです。

おむすBIZ

おむす BIZ(中学生以上を対象とした、自立支援活動)について

毎週土曜日(10時~12時、15時~17時)に、中学生以上の発達特性のあるお子さんや不登校のお子さんを対象にした自立支援の活動を当院 2F で行っております。

中学生になり思春期に移行すると他者と比較してどうみられるかなどの内面的葛藤が生じることが多くあります。特に発達特性のあるお子さんは、不安定になりやすく十分なサポートが必要です。ですが、幼少期に比べてサポートを受ける機会が少なくなるのが現状です。

中学生以上になると医療支援だけでは不十分です。

当活動では、お子さんの不安を軽減し、次への成長を促すことを目的とし、お子さんに合わせたプログラムを提供していきます。

活動内容の詳細や参加ご希望の方は一度当院を受診してください。